

DOYOU

さいたま

同友会の三つの目的 / 良い会社 良い経営者 良い経営環境をめざす



10月29日、2019年度全県経営研究集会が大宮ソニックシティにて開催され、481名の参加登録がありました。今年度は全体会からスタートし、基調講演後、6つの分科会に分かれて、学び合いました。分科会では、各テーマでの報告の後、参加者が活発な議論を交わしました。

写真は基調講演の比嘉み子氏(有)やんばるライフ 専務取締役 沖縄同友会相談役・中同協障害者問題委員長)、『同友会での学びで「何のために」を問い続け～「人」の不完全さと多様性を認めた事から始まる「人を生かす経営」～』をテーマにご報告いただきました。

※詳細な報告内容、分科会報告記事は次号にて掲載予定です。 ※今号裏表紙は写真で振り返る全研ページとなっています。

2019 - 12 December
VOL. 501 毎月1日発行

特集

第20回 障害者問題全国交流会in滋賀
人が輝くから企業が輝く、地域が輝く！

<http://www.saitama.doyu.jp>

社長の[®]
学校

第20回 障害者問題全国交流会 in 滋賀

人が輝くから企業が輝く、地域が輝く!



「人を生かす経営の実践で幸せの見える共生社会の実現を!」宣言採択

10月17～18日の2日間、第20回障害者問題全国交流会が滋賀にて開催され、45同友会・中同協から502名が参加しました。障害者問題全国交流会は1983年に第1回を滋賀で開催し、滋賀同友会では第20回記念大会と位置づけられ、障害者問題委員会や障全交のあゆみを確認し、第20回障全交の宣言を採択するなど交流会となりました。

1日目は6つの分科会で、「共に学び、共に育つ職場づくり」や「ダイバーシティ」など多様な人が働き、輝くための各企業の実践に学びました。

記念企画の第1部では「この子らを世の光に」VTR鑑賞し、「障害児者福祉の父」と呼ばれた故糸賀一雄氏が遺した思想や、誰もが埋もれることがない社会の創造を目指した糸賀氏の足跡に学びました。この番組を作成した(株)NHKエデュケーショナル特集文化部部長プロデューサーの牧野望氏より糸

賀氏を取材した背景や思いなどが語られました。

その後第2部として滋賀同友会の高橋信二氏をファシリテーター、比嘉あみ子・中同協障害者問題委員長、永井茂一・滋賀同友会代表理事をパネリストにパネルディスカッションを実施。「真の共生社会の実現を目指して」をテーマに討議を深めました。そこでは、国民や地域とともに歩む中小企業として、「人を生かす経営」の実践が「幸せの見える共生社会」の実現につながるのと共通認識を得ました。

2日間のまとめを、加藤明彦・中同協 人を生かす経営推進協議会代表が行い、最後に第20回障害者問題全国交流会宣言を満場一致で採択。「幸せの見える共生社会」の実現を見据え、絶え間ない実践を続けることを誓いあいました。最後に、次回開催地となる沼田道孝・埼玉同友会副代表理事があいさつし閉会しました。

～参加者の分科会報告記事をご紹介します～

第1分科会

共に学び共に育つ職場づくり
～みんなが幸せを実感できる企業をめざして～

報告者：奥山敏康氏 (株)アイワード 代表取締役社長

第1分科会の報告者、奥山敏康氏の会社はブック印刷や、情報処理、システム開発等を行っていて、全社員の日報をあ

りのままにフィードバックしているという話はとても印象的でした。情報共有をはかる社内報の発刊を続けて36年、5700号を超えた「社内報フォーラム」が会社の財産という奥山氏。現在、200名の社員のうち15名の障害者が働いています。

報告の中での一番の学びは、「能力と条件」についての話です。男女の性による差別や障害による差別をしないために、皆が一丸となってやり上げていく上で大切



なこと、それは「能力と条件」だということでした。「『能力』とは、物事をなしとげることの出来る力。『条件』とは物事が成り立つ事柄のうち、環境によってそれを制限するもの。全社員が能力を発揮するためには、条件、つまり、それぞれの社員にとって、制限されることを取り除いた環境を作っていけば良いだけのこと。障害があろうとなかろうと、自主的自覚的に目標を決め、どんなことがあってもやり遂げる。一人一人が会社の中での役割を自覚し、生産性に寄与しているか考えて働くことで、共に育ち合い共育的人間関係が築かれていく」との言葉は、胸に刻み、今後の自身のぶれない軸としたいと思いました。

報告をお聞きし、お互いに尊重し合い、生き甲斐を感じながら働いている社員さんの姿が目につきました。弊社は2013年神奈川障全交に初参加し、感銘を受け、障がい者雇用を始めて6年が経ちます。障害者雇用に取り組んだことで、会社はどう変わったか、社員さんと改めて、話をしたいと思いました。

人を生かす経営の神髄の障害者雇用。2年後の2021年、埼玉での障全交開催に向け、埼玉同友会の皆さんと一緒に学びを深め、全国の皆さんをお迎えしたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(浦和地区会 横山由紀子 記)

第3分科会

同友会の一丁目一番地はここにある ～我々は企業家として障害者どう向き合うのか～

報告者：杉浦昭男氏〈真和建装(株) 取締役会長〉
浅井順一氏〈(株)浅井製作所 代表取締役〉
コーディネーター：磯村裕子氏〈サン樹脂(株) 常務取締役〉



第3分科会は「同友会の一丁目一番地はここにある。我々は企業家として障害者どう向き合うのか」というテーマの分科会でした。愛知同友会では「一社一人関わろう」をスローガンに、会を上げて障害者問題に取り組んでいます。「何も障害者を雇えと言っているわけではない。関わってくれと言っているだけ。私たちの周りには当然仲間がいますよね? その中に

障害者がいるってだけ。大した問題じゃない」とおっしゃったのが印象的でした。そもそも同友会は人間尊重という土壌の上に共育と労使見解という芽が吹いた訳で、人間を尊重すれば健常だの障害だのくる必要もなく寄り添い合える。それが地域貢献につながっていく、ということを再認識しました。大切なのは関り方で、自尊心を支え対等であると認め合う、その覚悟であるとおっしゃっていました。「桃李不言下自成蹊」という詩を引用して、自分はやるべき事をやっているだけ。自然と足元には道が出来、皆が集まってくる、と、運動の何たるかを教えてくださったように思えます。障害を持った人も持っていない人もみな同じ。これをまず知ること。あとは同友会の理念に沿って愚直に行動をする。そうする事で自ずと支持者が道となり、行動そのものが活動になり、それはうねりとなって運動へと展開されていく、そのように理解しました。グループ討論も、委員会の性質上事業所さんが多かったのですが、考えを新たに持ち帰ろうという事に終始しました。結局一番の肝になる委員会であるとの気持ちを新たに、報告とさせていただきます。

(東部地区会 出雲武 記)

第4分科会

大丈夫、働けます! ～"人を生かす"の本質がありました～

報告者：青山裕史氏〈油藤商事(株) 代表取締役社長〉
永岡鉄平氏〈(株)フェアスタート 代表取締役社長〉
コーディネーター：遠城孝幸氏
〈認定NPO法人 四つ葉のクローバー 代表補佐〉



第4分科会では、永岡鉄平氏、青山裕史氏から報告がありました。

永岡鉄平氏の報告は、就労困難者とされる若者(発達障害、社会的養護、ニート、引きこもり)という枠の中で、特に児童養護施設で暮らす方々は、6割～7割の方が就職するが1年以内で大半の方が離職の状況にある事や企業を知る「機会と縁」が不足している状況である事の報告がなされた。この解消には、企業の広報・実習受入れを積極的にすることが、就労困難者への「機会と縁」が増えることに繋がり就労に結びつくとのことでした。



続いて、青山裕史氏の報告があり、青山氏の会社は、125年続いている老舗の会社で、現在はガソリンスタンドを経営し、障害者の方を3名雇用している。

障害者を雇用するにあたって、自分たち自身の仕事が増える事への不満等が見られたが、お客様への対応や最後までやり遂げる姿をみて社員も考え方が変化し、今では、会社の戦力として働いているとの報告があった。

分科会では、「福祉事業所との交流を盛んにする。」「障害を個性と捉える。」「支援という言葉は、上から目線。」「誰でも受け入れる会社の社風」等々の報告があり、これら実践することが人を生かす経営に繋がっていくことでまとめられた。

(浦和地区会 佐取幸一郎 記)

見学分科会

障害者雇用なんてムリ!と思い込んでいるあなたへ ～人を生かす経営で心のバリアを取っ払え!～

報告者:永井茂一氏(株ピアライフ 代表取締役)
大川葵氏(株ピアライフ 賃貸事業部担当)



経営理念などなく、ただただお金を稼いで、客からは不満どころか騙されたと罵られ、社員は育たず定着しない会社

だったピアライフは、永井社長が同友会で様々な役を担い経営指針を作るなかで学びと気づきがあり、社員が生き生きと活躍する会社に変っていききました。それでもサービス業の不動産会社で障害者雇用なんてムリと思っていたのですが、映画「日本一幸せな従業員をつくる!」を見たタイミングで今回報告に立った聴覚に障害のある大川さんから問い合わせがあり、「障害の有無は問いません!」と返事をしたそうです。大川さんは入社5年目に入り、契約も含めて来客対応を健常の社員と変わらずにこなし、中小企業はもう一つの家族だとまで思っているそうです。

「会社を安定させること成長させることは大切だが、社会の役にたつことこそ会社の意義」「ご縁を大切に人の可能性を信じるのが人を生かす経営」「そもそも障害のあるなしに関わらず人はすべてが多様」「中小企業は1社ですべての人を抱えるわけにはいかないのだから、自社の特徴や魅力を発信して多様な人々から選んでもらう側にならなければならない」「経営者は雇用したならば、その人に合わせて仕事を作り出していく」等の学びが発表されました。

見学中心だと思っていた見学分科会ですが、行きも帰りもバスの車内モニターを使っての報告、現地では始めに店内を自由に見学しただけで、70分の報告+90分のグループ討論と、みっちり濃厚な一日でした。

(大宮南地区会 飯田雄司 記)

中小企業同友会全国協議会 第20回障害者問題全国交流会 IN 滋賀 宣言

人を生かす経営の実践で幸せの見える共生社会の実現を!

私たちは10月17～18日の二日間、「人が輝くから企業が輝く、地域が輝く!」をメインテーマに、第20回障害者問題全国交流会を滋賀の地で開催しました。

「この子らを世の光に」という「障害児者福祉の父」と呼ばれた糸賀一雄氏が遺した思想や、誰もが埋もれることがない社会の創造を目指した糸賀氏の足跡に学びました。1日目の6つの分科会の学びを持ち寄り、全体会で「真の共生社会の実現を目指して」をテーマに討議を深め、国民や地域とともに歩む中小企業として、「人を生かす経営」の実践が「幸せの見える共生社会」の実現につながるの共通認識を得ました。

共生社会とは、誰かにとってよい社会ではなく、すべての人にとってよい社会です。その実現のためには社会的に不利な状況にある人たちの諸問題を捉え、状況を理解し、障害や障壁を取り除く絶え間ない努力をすることが必要です。そして、誰もが個々の「幸せ」に向けチャレンジし、その幸せを共有できる環境を創造することは、経済を牽引する力であり社会の主役である中小企業の大きな使命とも言えます。

中小企業同友会全国協議会は、本年設立50周年を迎えました。障害者問題委員会は、国際連合が1981年に国際障害者年を位置づけるのに先立ち、各同友会では障害者を取り巻く諸問題の解決に取り組み、1982年に中同協で障害者問題委員会を設立し、当初から共生社会の実現をめざしてきました。

障害者問題全国交流会は1983年に第1回を滋賀で開催し、優れた経験を交流し教訓を積み重ね、第20回の節目に再びこの滋賀の地に集まりました。この会場は2002年に「21世紀におけるアジア太平洋地域の障害者のためのインクルーシブで、バリアフリーな、かつ権利に基づく社会の促進」という目標を推進する「びわこミレニアム・フレームワーク」という第二次「アジア太平洋障害者の十年」推進のための政策文書が採択された会場であり、ここに集うということは歴史的にも意味があると言えます。

また、2015年に国連では「持続可能な開発のための2030アジェンダ」として「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択しました。SDGsは「誰一人取り残さない(no one will be left behind)」ことを基本理念としています。世界の潮流からも運動のより一層の推進が求められています。

中同協では「同友会運動の将来展望(10年ビジョン)」を発表しました。「同友会理念を会内外に広め、すべての人々がその持てる能力を発揮できる社会環境をつくるため、諸課題の解決に向けて世界的な視野と視座で考え、地域に立脚して取り組むことをここに表明する」とあります。

このように私たちの運動は、「人を生かす経営」の根幹をなし同友会運動の真髄であるとの誇りのもと、人を生かす経営を実践し、地域に広げるとともに、世界にも発信していく必要があります。私たち中小企業家は、「幸せの見える共生社会」の実現を見据え、絶え間ない実践を続けることを誓い、本交流会の宣言とします。

2019年10月18日

第20回障害者問題全国交流会 IN 滋賀

2020年度

埼玉県の中小企業政策に対する 中小企業家の要望・提言

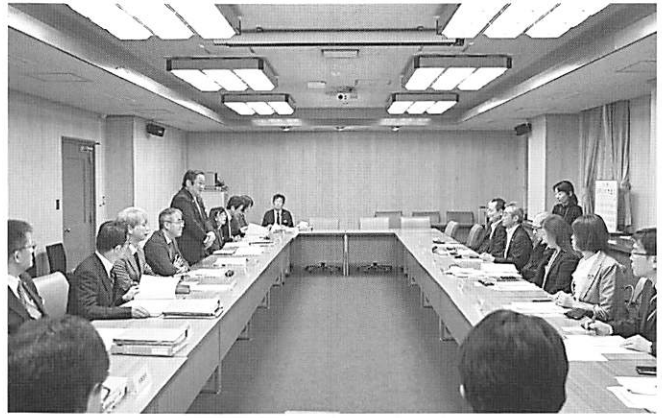
中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい環境下にあるとの視点に立って、埼玉県の中小企業政策に対する要望・提言をいたします。

I. 地域の活性化の主役に中小企業、業者、農林・漁業を位置づけるために

1. 政府が決定した「中小企業の日」7月20日、及び「中小企業魅力発信月間」を豊かに充実したものにするために「中小企業魅力発信月間」推進プロジェクト(仮称)を設置し、多くの各種団体、教育関連者・金融関連者、経済団体、業者等の参加で豊かなものに進める。また、「中小企業応援サミット」を「月間」の取り組みとして紹介、参加等を要望します。
2. 前項の内容を、専門的に把握し、企画する横断的な部署(例:中小企業魅力発信課)の設置を要望します。
3. 「成長の活力をつくる」埼玉県5か年計画の「あらたな産業の育成と企業誘致の推進」について、中小企業の多様性と地域づくりの主たる担い手としての位置づけを明確にして重点施策とすることを要望します。

II. 中小企業の雇用問題について

1. 中小企業の人手不足に対する採用支援の継続。
県による合同企業説明会開催において、「中小企業枠」を更に充実して頂くとともに、新たに同友会主催の合同企業説明会と同日・同フロアでのコラボ開催をお願いします。さらに中小企業中心の「埼玉県企業ガイドブック」の作成や企業紹介ビデオの作成を積極的に予算化して頂くことを要望します。
2. キャリア講座、課題解決型授業(PBL)普及支援の継続
同友会は、県内大学や県立高校と数多くキャリア講座やPBLに取り組んでいます。
また、地域と学校と企業が連携して子供たちを育てる環境をつくるためにも、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)や学校評議員制度に、地域の企業経営者を積極的に任用して頂きたい。
3. 中小企業で働く魅力をPR
同友会として大学、専門、短大、高校との定期的懇談会を通して学校関係者と「中小企業で働く魅力」について、経営者自ら語り合う交流を続けております。県としても教育委員会へ同友会との連携を促し、学生や教師、父母の中小企業に対するイメージを向上していく場を多く創出して頂くことを要望します。
4. 同友会らしいインターンシップの普及支援
県としては「埼玉県大学生インターンシッププログラム」により大学生のインターンシップを支援されておりますが、大学側を含めて、中小企業への応募が少なく、職種、業種による片寄りも見られます。健全なる学生の職業観育成の観点からも幅広い職業、職種の中小企業への応募は窓口として同友会を促すよう



にしてください。

III. 障害者雇用の推進について

1. 福祉事業所・特別支援学校交流会への支援
今年8月には県西部地区におきまして交流会を開催しました。現在障害者雇用をしていない会員企業3社に特別支援学校教員、就労移行支援事業所職員らとともにバスで企業訪問し、仕事の切り出し、実際の雇用の現状や現場実習についてアドバイスをいただくことを目的としました。これらの企画に今まで通り提言をいただき、引き続いての学校関係者の出席と、交通手段の確保や開催場所の提供など様々な形での県の支援をお願いします。
2. 特別支援学校との連携強化への協力
会員の障害者への理解を深め、現場実習の実施、障害者雇用を推進するために、教育局および特別支援学校との連携強化を目指して参ります。企業情報の学校への伝達など、さらなる連携強化への協力をお願いします。
3. 2021障害者問題全国交流会in埼玉への後援、協力
中小企業家同友会では、2年に一度全国の会員が約600名集結し、障害者雇用について情報交換し、親睦を図る「障害者問題全国交流会(障全交)」を開催しています。
この障全交の次回2021年の開催地が埼玉に決定し、開催に向けて準備に動き出しています。
つきましては、2021障害者問題全国交流会in埼玉への後援をお願いします。

IV. 地域振興

(県内の市町村が連携した新たな観光プランの推進)について

1. 地域観光資源ブラッシュアップのための市町村連携型観光地域連合会の設立支援
郷土愛を育み地域振興に意欲のある地域中小企業や団体の持つ地域情報や人脈や知恵等を活用し、テーマや観光資源のブラッシュアップを効率よく行い、観光により儲かる地域としていくため、エリア・ブロック別の市町村連携型観光地域連合会(協議体)を設け、訪れたいくなる潜在的な観光需要を掘り起こしていく。
2. 県観光物産協会と市町村観光連合会(仮称)の連携
2020年の東京オリンピックの埼玉会場が決定しているにも関わらず、全県的な動きになっていません。については企業や団体から地域活性の積極的な提案を各市町村の基礎自治体(行政)が受け、商工会議所(会)や各地観光協会と連携した観光コース(プラン)造成を県観光課や地域メディアとタイアップして、イ

ンバウンドも含め県内外から誘客を図り、本県インバウンド向け観光ルートとして確立させ、オリンピック後のインバウンド誘客につなげていく。

3. 各市町村内の中小企業や小規模企業など民間活力と各地観光協会の連携協力の推進

各市町村の農・商工・観光担当部門は積極的に観光協会や商工(会)会議所とともに中小企業団体やNPO団体、大学など研究・教育機関、地域金融機関などに呼びかける。新たな切り口で産業や体験型観光などのアイデアや企画を図り、連携・横断型市町村観光協会連合会を設ける。

V. 「埼玉版SDGs(埼玉の持続可能な開発目標)」を県内に発信

2030年にむけて世界が合意したSDGs「持続可能な開発目標」は17項目で構成されています。「埼玉から世界へ」と捉えて埼玉県として何ができるか。つきましては以下の項目について要望します。

1. 産学官プロジェクトを立ち上げ、「埼玉版のSDGsアクションプラン」作成
2. 「埼玉版SDGs地域中小企業表彰」の実施

VI. 渋沢栄一大ブームを地域中小企業の大きな飛躍のために活用

埼玉県生まれの渋沢栄一は、NHK大河ドラマでも取り上げられ、また紙幣刷新で一万円札の図柄にもなります。令和の新知事のもとで埼玉発の大きなムーブメントとして捉え、埼玉から全国に発信していただきたい。平成23年から埼玉県では、新たな事業・革新的な事業に積極的に挑戦し、大きな飛躍を目指す県内中小企業を表彰する「渋沢栄一ビジネス大賞」を実施していますがこの事業を今まで以上に拡大解釈し拡散させてください。

VII. 情報通信インフラ整備による地域ネットワークシステムの創生

1. 災害時における連携体制の構築

昨今は、想定外の災害が発生することを想定しておかねばならない事態が多発しています。定期的にPDCAを行い、想定外の災害が発生した場合も迅速に判断・行動が出来るよう、地域の住民、企業、行政が連携した訓練や周知体制を共に構築していければと考えます。

2. 高度通信網の確立

災害時においても通信網が途絶えることのないよう、また人を集める観光資源としても、基地局(アンテナ)の設置、モバイルデバイスの充電スポットが迅速に広まるような政策を規制緩和も含め策定して頂きたい。

VIII. 消費税税率アップの対応策、軽減税率の導入とインボイス制度(適格請求書等保存方式)の影響について

1. 消費税アップに伴う消費の落ち込み、売上の減少による資金不足に対応した、融資の対応を要望します。また、納付する消費税が2%増加すると、納付税額は現状の125%になりますので、消費税の増加要因も審査の中での項目に含めることを要望します。
2. 県内の主要な商店街、中小小売店の軽減税率、ポイント還元

についての対応状況を早急に把握することを要望します。そのうえで、軽減税率制度が続く限り、レジ対応が必須になってきますので、政府の12月16日で打ち切られるレジ補助について、それ以降の対応についての、独自の支援の制度を要望します。

3. 消費税アップに伴う転嫁についても、中小企業、中小商店に絞って同時に把握することを要望します。転嫁について、不当な値引き対応等があった場合の指導や指摘を要望します。
4. インボイスの導入は、中小零細事業者にとって経済活動の流れから排除されるか、厳しい消費税の負担をするのか等の選択を迫られ、事実上の免税制度をなくすものであり、場合によっては産業構造を壊すものになります。中小零細業者の多様性こそ経済の活性化と地域の豊かさを保証するものです。個人から中古車を購入する事業者や、質屋業、産廃事業者には一定の条件でインボイスがなくても認めています。県としても、免税事業者からの購入について、インボイスの義務付けが必要ないように政府には働きかけることを要望します。

IX. 働き方改革について

1. 時間外労働の上限規制
 - ① 県内中小企業・小規模事業者に対し「時間外労働の削減」の重要性を一層周知するとともに、具体的な対応策を助言、指導する仕組みをこれまで以上に拡充してください。
 - ② 「時間外労働の削減」を実現した事業者に対し県独自の助成金制度を創設(拡充)してください。
2. 年5日の年次有給休暇の確実な取得
 - ① 県内中小企業・小規模事業者に対し「年5日の年休取得」の重要性を一層周知するとともに、具体的な対応策を助言、指導する仕組みをこれまで以上に拡充してください。
 - ② 「年5日の年休取得」を実現した事業者に対し県独自の助成金制度を創設(拡充)してください。
3. 不合理な待遇差解消
 - ① 県内中小企業・小規模事業者に対し「不合理な待遇差解消」の重要性を一層周知するとともに、具体的な対応策を助言、指導する仕組みをこれまで以上に拡充してください。
 - ② 「不合理な待遇差解消」を実現した事業者に対し県独自の助成金制度を創設(拡充)してください。

出席者

(敬称略)

(埼玉県)

産業労働部長・加藤和男、産業労働部副部長・新里英男、産業労働部雇用労働局長・勝村直久、産業労働政策課長・野尻一敏、商業・サービス産業支援課長・碓井誠一、産業支援課長・藤田努、金融課長・大森明紀、観光課副課長・黒沢万里子、雇用労働課長・田中健、ウーマノミクス課長・山野隆子、産業人材育成課長・田口修、産業労働政策課副課長・檜山清、産業労働政策課主幹・保田和宏、産業労働政策課主事・中島聡

(埼玉中小企業家同友会)

代表理事・太田久年、副代表理事・沼田道孝、副代表理事・米山正樹、副代表理事・共同求人委員長・三角武一郎、政策委員会副委員長・小松君恵、政策委員会・水野浩美、事務局長・清水信彰、事務局主任・田ノ上哲美

共同求人オープン学習会

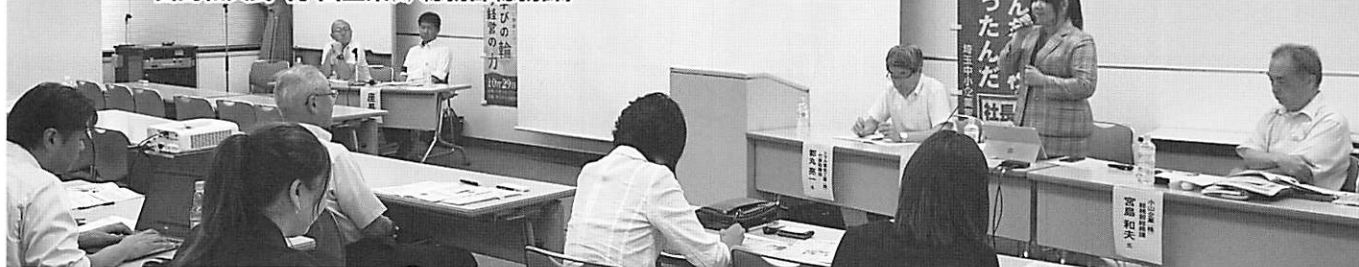
テーマ:新卒採用の前に社内の働く環境づくり進んでいますか?

日時:9月26日/会場:大宮ソニックシティ

報告者:都丸亮一氏(トマル電気工業(株)代表取締役)

中川怜子氏(株)ディーアイケイ代表取締役)

宮島和夫氏(小山企業(株)総務部総務課)



このオープン学習会の開催趣旨は「県の委員会活動を知り」委員会参加者を増やす活動です。今年の共同求人委員会は「働く環境作り」がテーマです。「働き方改革」の制度に対するセミナーは良く行われてます。しかし「働き方改革」を取り入れ「働く環境作り」の事例報告が少ないので、委員会の今年度計画に沿ってオープン学習会を開催しました。

報告者はトマル電気工業(株)都丸亮一氏、(株)ディーアイケイ中川怜子氏、小山企業(株)宮島和夫氏です。土木設備系、IT系、物流系と異業種の3名から「有給消化を含む休暇制度、就業規則、評価制度、資格取得支援、各社独自の福利厚生」を報告頂き、参加者が持ち帰れる事が多くなるよう資料の配布も

行いました。

人手不足が深刻な中小企業は、売上や利益以上に「長く働き続ける理由」をどれくらい社員さんに提供出来るかが重要です。人を生かす経営の総合実践を目指す同友会の会員は働く環境作りとして仕組みや制度作りを、自社に合った形で構築し運営し修正をしながら良い会社を作って行き、今いる社員さんがイキイキとしているから、新卒採用が可能になる会社を参加者と作っていく事を再度認識しました。経営指針成文化実践の場として「共同求人委員会」の参加者が増える事を呼びかける、オープン学習会でした。

(戸田・蕨地区会 吉田雄亮 記)

理事・幹事研修会 同友会運動からリーダーのあり方を学ぶ

日時:9月20日 会場:さいたま新都心ビジネス交流プラザ

報告者:太田久年氏(株)ハウユウ 代表取締役・埼玉同友会代表理事)

平林弘行氏(株)サンユーさいたま 代表取締役・東部地区会会長)

埼玉県の理事、各地区幹事として運動を推進する役割や、同友会理念に基づいた同友会型経営について学び、同友会運動と自社経営は不離一体であることを再確認し、運動と経営実践を同時に進めていくことで理事・地区幹事として責任ある行動で成果を出し、会の発展につなげていく事を目的に開催されました。

最初に平林氏から地区会運営について報告されました。(会歴の割に積極的に参加していなかったそうですが、)会長を打診されてからは覚悟を決め、多くの会員が役割を担うよう工夫し、次年度以降の人事や取り組みについて地区の先輩や幹事メンバーと相談しながら次々に計画し、多くの会員さんを巻き込んで自主的に参加してもらうことで、活性化することに成功しました。

その後、同友会運動と自社経営を結びつけ地域を巻き込むリーダーとして同時に発展させていく必要性を太田氏から報告いただきました。

太田氏から同友会リーダーの10ヶ条や、人を活かす経営「労使見解」が他団体にはない強みと再認識し、改めて労



使見解を学び自社を発展させていく経営者の姿を地域で示していくことが会員増強の最も近道になるのでは無いかと問いかけられました。

その後「同友会のリーダーとしてどうあるべきか」のテーマでグループ討論を行い理事・幹事としての考え方、あり方など具体的な事例を交えた、活発な議論が繰り広げられました。

理事・幹事が同友会理念の体現者として行動することが、地区会、県全体の発展に繋がると改めて認識できました。(副代表理事 高橋正哲 記)

各地区会で開催された例会をご紹介します。

【浦和地区会9月例会】

働きやすい職場づくりのトップランナーを目指して

～新卒採用から見えてきた人に合わせた職場作り～

報告者：池永和義氏（㈱エー・シー・トランスポート 代表取締役）



浦和地区会の9月例会では、運送業界の池永社長の報告を通じ、「働き方改革」の具体的な取り組み事例を学びました。

㈱エー・シー・トランスポートでは「永続雇用」というビジョンを掲げています。これを実現するためには、若い力が必要です。しかし、労働環境の過酷さのイメージが先行する運送業界では、人材の確保には苦労が耐えないそうです。

業界の常識にとらわれない新しい発想で、この難局に立ち向かうべく始めた新卒採用から「人に合わせた働きやすい環境づくり」の重要性に気づきます。

均一的な労働条件が業界の常識の中、社員さんそれぞれの希望に合わせた形の勤務体系の構築のほか、社員さん同士のコミュニケーションを活発するための取り組みを行うなど、日々奮闘されています。この取り組みは、人材の確保のみならず、自社事業の社会的地位向上を目指している会社の先進事例として、とても参考になるものでした。

その後「働きやすい職場とは」をテーマにグループ討論を行い、学びを深めました。（大森靖之 記）

【大宮南地区会9月例会】

「時代の変化は全て中小企業のチャンス！」

～私たちを取り巻く情勢の変化つかみ未来につなげる～

報告者：林隆史氏

（東京中小企業家同友会事務局 中同協関東甲信越ブロック 次長）



「世界の情勢」「日本の情勢」「埼玉の情勢」「IT技術の変化」4つの視点で、日本経済、企業経営の情勢を報告いただきました。また、時代を先取りし、取り組んで成功した会社。取り組んでいる会社の事例も同友会

会員のリアルな内容だったので、とても身近に感じる事ができました。グループ討論では「あなたの会社にとって、機会と脅威はなんですか？」をテーマに討論を行いました。報告の情報量が多い事もあり、市場の変化に対応する、グローバル時代を考え外国人の採用も検討する、外部環境のリスクをチャンスに変えられるよう変化に対応できる組織作り、などの話で大変盛り上がりました。グループ討論、報告で得た、

気づきや学びを明日からでもすぐ実践につなげようという事で、9月例会は成功に終わりました。運営の皆さん、ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

（高瀬利明 記）

【むさし野地区会9月例会】

『問題』と『課題』の違いを認識していますか？

～問題のままでは前に進めない！課題解決で明るい未来へ～

報告者：奥津雅史氏（㈱54代表取締役兼CEO 埼玉地区会）



むさし野地区会9月例会は、経営委員会担当で、株式会社54代表取締役兼CEOの奥津雅史氏にご報告いただきました。奥津氏は、岩槻などに店舗を構える焼肉店「焼肉やっちゃん」を経営されています。報告

では、渋谷に店舗を出店したもののリーマンショックのあおりを受け2年足らずで閉店となったり、様々な出来事を経て、指針づくりセミナーを受講して今日の経営を築き上げたお話をいただきました。また、『問題』と『課題』の違いについてのお話と、問題にも3種類あり、現場は今、リーダーは3年後、経営者は10年後を見て課題を認識しなければならないというお話がありました。様々な経験をされてきた奥津氏だからこそ、10年後を見据えた問題を認識し、課題として捉えた上で、リーダー不在という問題に向き合い、リーダー育成という課題に取り組んで行かなければいけないという熱い想いの感じられる例会でした。（古屋早雪 記）

【中部地区会9月例会】

同友会で誰と出会い、何を学び、どう実践したか。

～破天荒な鉄砲玉社長の奮闘記～

報告者：星山忠俊氏（㈱ファースト埼玉 代表取締役）



起業後、破天荒ながらも芯のある性格と持ち前の明るさで売り上げは伸ばすものの赤字が続きます。赤字の問題と社員の問題もあり、わらをもすがる思いで「社長 埼玉 勉強」とネットで検索したところ「埼玉中小企業家同友会」がヒットし、すぐに電話をして入会。

最初に出た例会で「あなた、理念あるの？」という質問からすぐに経営指針セミナーを受講する。同時に全国の同友会の仲間と交流し、自社の問題、悩みを相談。売上を上げれば

上げるほど自社の財務が厳しくなる契約を親会社としてしていることが発覚。

同友会で学び「利益計画」、「就業規則」、「人事評価制度」、「経営指針書」を作成し、労働環境整備に着手した。親会社との不平等な契約は、交渉により健全な関係をつくり、今期は黒字が確定している。この実践は、星山社長が同友会に入会し学び、経営者としての覚悟、姿勢を確立できた賜物だろう。グループ討論では、「何のために経営していますか?」とストレートなテーマで討論。ゲスト9名と少し多めの人数の中、自社の経営の話をするのが新鮮であり、報告内容と共に刺激を受け、2名の方から入会の意思をもらった。

(田中幸治 記)

【川越地区会9月例会】

『ひとを活かせば会社も地域も元気に!』

～だれもが働く喜びや生きがいを感じられる地域づくりへ～
報告者:松浦庸介氏 (特非)インターメディカル 精神保険福祉士



社業の切り出しによって、業務の効率化と障がいを持つひとの就労の可能性を探る例会となるように企画をしました。

今回は、精神障がいにもスポットを当て、就労支援事業者の松浦氏の報告。そして

職場の同僚と施設利用者も一緒に参加をしてもらい、実態がわかるように工夫をしました。

精神に障がいを持つひと、仕事に対して高い能力をもっていること。適切なコーディネートを受けることにより多くの分野で活躍出来ることがわかりました。

ただ、個人には『クセ』があり、時間を守ることが苦手だったり、急にお休みをしてしまうことなどがある特性を理解出来ました。

企業の仕事の中には、急ぎではないが、必要な仕事があります。仕事を切り出すことによって、多くのひとが働く喜びを感じる事が出来たり、他者と関わる事によってコミュニケーションを多くとられたりします。

結果として、風通しのよい社風が生まれるのではないかと、グループ発表が纏まりました。

(大沼 崇 記)

【北部地区会9月例会】

**この事業に携わった理由、
そして見えてきたものとはPart24
全てはお客様をお守りするために**

報告者:荻原武氏 (ソニー生命保険(株) ライフプランナー)

若い時から車が好きで自動車整備工、自動車販売と車に携わって来た荻原氏。順調に車の販売数を上げ、販売店店長に昇格と言う次期に、全く畑違いの生命保険会社から誘いを受けます。



誘いを断る事一年余り、就職する気は全く無く、生命保険の疑問点をプロに聞いてみるつもりで会社を訪問します。その時入社

の勧誘は一切されずに生命保険や人生の保証の説明を受けたことで考えが一変、全く畑違いの生命保険業の今の会社に飛び込みます。

完全歩合制のため契約が取れないと収入が増えません。当初は軌道に乗れませんでした。先輩社員からの教えで原点に立ち返る、報酬よりも貢献を大に、お客様の想いを聴くなど、在り方とやり方を学び、6年間で顧客0人から500人へとになりました。国際的に生命保険と金融サービス事業の優績者であると評価されるMDRT会員にも今年選出されました。グループ討論は「お客様に選ばれるためにどんな経営をしていますか?」のテーマで3つのグループで話し合いました。活発な討論となりましたが、どのグループからも「お客様から強い信頼を得ること」がお客様に選んでいただく重要な点ではないかという意見がありました。

(東禎章 記)

【東彩地区会9月例会】

10年後に会社はありますか?

報告者:高橋大介氏 (株)パソコンファーム 代表取締役



「10年後会社はありますか?」というテーマで、株式会社パソコンファームの高橋大介さんにご報告いただきました。

行政の統計では、10年後生き残っている会社は7%で、残り93%は倒産・

廃業してしまうそうです。高橋社長は、創業23年。様々な事業にチャレンジし、様々な失敗の中から現在の主力事業を見出し発展されました。何をするか、誰とやるか、新たなビジネスは「お客様が教えてくれる」など、ヒントになるお話しが多数あり、我々中小零細企業が生き残り、さらなる発展をしていくためにはどうしたらいいかを自社の経営体験をもとに、問題提起いただきました。常に外部環境の変化を把握し、自社の未来を想像しなくては生き残れません。それには経営者が徹底的に学び、会社の現状をきちんと把握し、未来に向けた計画、ビジョンが大切だという報告をいただきました。

その後のグループ討論では、それぞれの10年後を想像し、明日からどんなことを実践するのかを熱く語り合い、大変盛り上がりました。

また今回の例会設営は、東彩地区の地域仲間づくりPJが中心となり、会外のゲストを多数(計11名)お呼び致しました。三郷での開催ということで、三郷市商工会青年部4名、三郷青年会議所4名にご参加いただき、同友会を知ってもらう良い機会となりました。

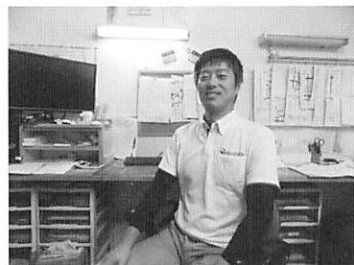
地域の他団体交流は、双方の発展のため必要です。

(齊藤 壽和 記)

企業訪問記

(有)山田建具

代表取締役 田中幸治氏〈中部地区会〉



創業50年を誇る(有)山田建具は、注文建具、注文家具の作成からリフォームの対応やデザイン性が高い障子作成、障子張り替えなど、木製建具なら何でも対応できる職人さんの技術が光る会社です。建具屋

の仕事は建具をはめるだけでなく、ミリ単位の調節をしてピタッと綺麗に収めることと話します。

田中氏は平成28年に社長に就任し埼玉同友会にも入会。経営指針づくりセミナーを受講し本気で自社の経営を考える

ことで、売り上げが大きかった請負をやめ、自社の技術と設備を生かした建具屋としての方向性が決まります。現在は、職人の手仕事で個性が際立つ飲食店の照明器具や部屋の間仕切りを作るなどコツコツと、い



い仕事をする中でファンが付き、商品化して売っていく流れができつつあります。セミナーを受講するまでは、建具屋の仕事は魅力がないと思っていて違う分野への進出も考えた時も



杉素材の試作品、畳敷犬小屋

あったけれど、受講後は「何でもできて味があるし楽しい」と思いが変わったと語る田中氏。青年部の活動は、「この人たちスゲーな!」と感ずることが多く、参加するたびに負けていけないぞという気持ちになり休まず参加しているそうです。

最近では建具屋さんが減って関東圏広域からも問い合わせがあり新しい取引先も増えているとのこと。今の技術を落とさないことはもちろん向上させていくこと、失われていく木工技術を後世に伝えていくことも使命と感じていて、木のことなら何でもできる自社のブランドの確立に思いが膨らみます。

(事務局 辻菊江 記)

会社概要

住所: 埼玉県さいたま市見沼区大字中川321

資本金: 1,000万円

従業員: 5名

事業概要: 建具、家具の製造販売、施工

会社URL: <https://www.yamadatategu.co.jp>

シリーズ
第1回

人を生かす働き方改革

「残業がなくなる」

2016年に政府が「働き方改革」を推進する40年以上前から、労使見解を持ち、働く環境の改善の運動を進めてきたともいえる同友会。働く環境づくりの手引きも中同協より発刊となり、各経営者の意識も高まりつつありますが、さて、自社を顧みてみるといかがでしょうか?『DOYOUさいたま』ではシリーズ『人を生かす働き方改革』として、会員企業の取り組みを紹介します。

現在弊社に残業はありません。しかし元々無かった訳ではありません。スポンサーをしていたサッカークラブから女子フットサルの選手を雇用しました。彼女が入社して半年ほどでしょうか、彼女から話があるとされました。まさか辞めるのかと焦りましたが彼女が涙ながらに語るには『社長! 残業が多くて練習に行けません。このままではここにいられません』と。残業は多少していたのですが勤退管理がなかったのであまり意識したことがありませんでした。私はそこで彼女に「わかった! あなたは明日から残業なし! 定時になったら退社していいよ」と答えました。翌日から彼女は定時であることになりました。しかしです、その3か月後位でしたか、今度



は彼女から「みんなが仕事をしているのに1人だけ帰るのは帰りづらいです」と言われました。こうなると引っ込みがたなくなり夕礼で「明日から全員残業なし」と宣言してしまいました。残業を無くすと却って社員も終わらせないと次の日に影響が残るので仕事が早くなります。こんなに早く終わるなら今まで何をしていたのだろうと思いました。結局は、だらだら残業だったと思います。仕事が早くなったので暇な日は定時前に終わるようになりました。それならもう定時もなくて終わり上がりやりにしてみるとほとんど定時前に終わるようになりました。今は終わり仕舞いです。思い切って行動した事が出た結果です。

(戸田・蕨地区会 石井孝徳 記)

新たな辞書の1ページ **新入会員紹介** (9/1~11/1)



服部 剛
 (有)高橋環境サービス
 大宮南地区会
 ゴミ回収など環境清掃サー
 ビス



工藤 陽介
 (株)リアル
 川越地区会
 サッカースクール、野球ス
 クール、フットサルスクー
 ル、フットサルコート運営



前田 徹浩
 ジブラルタ生命保険(株)
 川越地区会
 保険業



大地 恒一郎
 (株)アセットデザインラボ
 大宮南地区会
 企業型確定拠出年金の導入支
 援、イテコへの加入相談、各種投
 資教育、資金運用相談、不動産
 投資相談など



井手 剛
 モノライフ合同会社
 東部地区会
 バック、生活雑貨などの製
 造から販売まで行う企画
 ~販売まで、日本国内の
 EC店舗で展開



佐藤智晴
 だるまリハビリセンター
 東部地区会
 脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも
 膜下出血)における後遺症の改善を
 目指すために、利用回数に制限の
 ない集中的なリハビリを行う施設

~告知~

『DOYOUさいたま』1月号は1月中旬の発行となります。
 封入チラシをお申込みの会員は日程にご注意ください。

● 同友会日誌 9月1日~30日

- 2日(月) 新入社員リフレッシュ研修会(社員教育委員会)~
- 3日(火)、彩北幹事会・学習会、さくら幹事会、東彩幹事会
- 3日(火) 川口幹事会、大宮東幹事会、川越幹事会、西部幹事会、大宮南幹事会
- 4日(水) 2019年度第3回会員拡大大会議、むさし野幹事会、埼玉葛幹事会、浦和幹事会、中部幹事会
- 5日(木) 戸田・蕨幹事会、北部幹事会、東部幹事会
- 6日(金) 正副代表理事会議
- 9日(月) 障害者雇用推進委員会、ファミミーティング・ファミ学習会
- 11日(水) 経営労働委員会、広報委員会
- 13日(金) ビジネスワールドイン川崎見学会(仕事づくり委員会)、大宮中央幹事会
- 16日(月) 彩北例会~17日(火)
- 17日(火) 東彩例会、さくら・障害者雇用推進委員会合同例会、大宮東例会、川越例会
- 18日(水) 政策委員会、共同求人委員会、西部例会、むさし野例会、浦和例会、川口例会、大宮中央例会
- 19日(木) 北部例会、戸田・蕨例会、東部例会、大宮南例会
- 20日(金) 理事・幹事研修会
- 21日(土) 経営指針づくりセミナー【戦略編②】
- 23日(月) 彩北勉強会
- 24日(火) 社員教育委員会、東部勉強会
- 25日(水) 青年部幹事会、中部例会
- 26日(木) 共同求人オープン学習会
- 27日(金) 全研実行委員会
- 30日(月) 第1回全研グループ長研修

● 会員information

《住所変更》

- 大宮南地区会 (株)トライアローズ 結城晋会員
 〒101-0032 東京都千代田区岩本町
 2-12-7 東京リアル岩本町ビル3F
- 大宮南地区会 齋田税理士事務所 齋田恒平会員
 〒171-0022 東京都豊島区南池袋3-13-9
 ビスハイム池袋908号
- 大宮南地区会 ネイルサロン フリル 柴田優子会員
 〒351-0006 埼玉県朝霞市仲町1-11-48
 蕪木ビル405

《社名変更》

- 大宮南地区会 (有)ウエサカ薬局 上坂理会員
 (株)ウエサカ薬局へ

《TEL・FAX変更》

- 大宮南地区会 粟田行政書士事務所 粟田聡会員
 TEL:042-980-7773
 FAX:042-980-7774

《TEL変更》

- 大宮南地区会 (特非)さいたまサッカークラブ 齊藤純希会員
 TEL:048-783-2904

《社名・電話・役職変更》

- 大宮南地区会 (有)ばい月 望月浩会員
 M企画 代表へ
 TEL:090-3097-8276

◆ 訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

戸田・蕨地区会 都丸 亮一会員のご尊父が逝去されました。

会員数

2019年11月5日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川 口	46	大 宮 南	91	北 部	37
戸田・蕨	55	西 部	45	さくら	82
浦 和	82	むさし野	119	川 越	91
大 宮 東	43	東 部	134	東 彩	60
大宮中央	39	中 部	49	彩 北	19
		埼 葛	53	計	1045

編集後記

今年はアジアでも初となるラグビーワールドカップが日本で開催されました。皆さんもまだ記憶に新しいと思います。日本代表はとても素晴らしい結果を残してくれました。勇気を与えてもらった方も少なくないでしょう。私もその1人です。その結果が残せたのも「信頼」があったからとキャプテンのリーチマイケル氏が話していた記事を読みました。これからの組織には互いに信頼しあえる環境がどれだけ有るのかも重要なのかも知れませんが、

来年はオリンピックイヤーです。ラグビーワールドカップ、そしてオリンピックと共に我々も盛り上がりて行きましょう。

(北部地区会 荻原武 記)

写真で綴る全県経営研究集会 2019



全体会にて挨拶する太田久年代表理事



懇親会の乾杯にて挨拶をする
埼玉県中小企業団体中央会 専務理事 飯塚孝氏



2年後の埼玉障全交に向けてのPR!



報告者紹介に立つ
久賀きよ江会長



綿密な打ち合わせをする
高橋浩一設営地区会実行委員長(右)



今年度より制作したのぼりが大活躍!



見学分科会様大宮鍍金工業にて



懇親会に展示された仕事づくりのボード



埼玉県知事 大野元裕氏



さいたま市長 清水勇人氏



懇親会の司会、
安形智昭氏(大宮東地区会)



全体会の司会
岩見真里子氏(大宮南地区会)



基調講演で謝辞を述べる
横山由紀子氏(浦和地区会)



実行委員長の吉田雄亮氏(右)と
副実行委員長の清水小百里氏



会場誘導も全研実行委員会メンバーが奮闘



懇親会のサプライズ。フラッシュモブ

※全研の詳細な報告記事は1月号の掲載予定です。お楽しみに。

埼玉同友会 広報委員

- | | | | | | | |
|--------------|---------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------|---------------|
| 委員長
鈴木一朗 | 委員
川口 坂本武蔵 | 大宮東
大森靖之
安形智昭 | 西 部
印牧政彦
水野美和 | 中 部
島袋輝仁
矢澤敦臣 | さくら
池田恵津子 | 制作担当
杉込博久 |
| 副委員長
小田 明 | 戸田・蕨
石井孝徳 | 大宮中央
柴田大智 | むし江
江崎浩史 | 埼 葛
原田泰僧 | 東 彩
折原昌司 | 印刷・製本
加藤早苗 |
| 中山晴喜 | 木村亮介 | 大宮南
鈴木光義 | 山口将秀 | 埼 葛
松本賢二 | 北 折原昌司 | 事務局長
古川佳子 |
| 酒井 啓 | 浦 和
小林吉文 | 大宮南
加藤早苗 | 東 部
宇野碧留 | 北 部
東 禎章 | 早川良史 | |
| | 三友哲哉 | 佐藤正幸 | 藤元天美 | 萩原 武 | | |